

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立水産高等学校

32

自己評価				学校関係者評価		
学校運営計画(4月)			評価(総合)		自己評価は	
学校運営方針			評価(総合)			
生徒に国家・社会の有意義な形成者となるための「知・徳・体」調和のとれた教育を施し、確かな学力を育成し、他社との関わりの中で自己の在り方・生き方や使命感を自覚させ、心豊かで力強い生き方ができる人間の育成に努める。					A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標				
<p>【成果】昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、産業教育フェアや地域交流イベント等で本校の魅力を十分にアピールすることができなかった。本校の特色を象徴する水高祭は、一般の来場はできなかったが開催することができた。基礎学力定着のための「朝学習」を継続的に実施することで、希望進路実現を達成することができた。様々な地域交流が中止される中、三校合同の中学生対象の説明会を開催し、本校の特色化・活性化をアピールすることができた。</p> <p>【課題】昨年度の学校行事、地域交流など、本校の特色ある教育活動をコロナ渦の中において再開することが課題である。「いじめは絶対に許さない」を合い言葉に学校生活アンケートの実施や、いじめのサインを見逃さない教育活動を引き続き展開する。生徒の心の安定をはかり教育力向上を目指す。また、生徒一人一人が安心・安全で「居場所」のある学校生活ができる学校づくりを推進し進める。基礎学力の向上のために毎日15分間の「朝学習」において、きめ細かな指導をとり強く行い、生徒一人一人の進路を表現する。「海に学び、島に学ぶ」が、水高の入ローガンのもと、生徒一人一人が種(船舶職員、水産、海洋関連業界、食品関連業界など)への人材を育成する。</p>	<p>基礎・基本的な知識や技術の確実な習得と主体的、対話的で深い学びを実現し、水産教育を通して、水産や海洋産業、地域社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する。(学習指導)</p> <p>社会性、倫理観、コミュニケーション能力、他者との関わりの中で生きていくことの自覚等を育成する。(生徒指導・道徳教育)</p> <p>水産産業を魅力とやりがいのある産業として認識させ、高度な技術の学びの場や国際交流等を通してキャリア教育を推進する。(進路指導)</p> <p>基礎体力や物事をやり抜く忍耐力や責任感を育成する。(健康教育)</p>	<p>○日々15分間の「朝学習」をもとに、学習・復習、家庭学習の習慣化を図り、生徒に実態に即した授業展開、定期考査問題作成、放課後課外等を行い、学力向上を目指し確かな学力を育む。</p> <p>○資格課内の充実を図り、専門分野の知識・技術を生かした資格取得を目指すなど、生徒の希望進路の実現、自己実現を支援する。</p> <p>○生徒にチャレンジするチャンスを与え、目標に向かって活動に取り組んだ過程や結果を認められる(褒める)ことで、生徒に達成感を味わわせ、更に次のチャレンジ意欲を向上させる(励ほめ福留メント)を実行する。</p> <p>○本校で「何をしたいのか」「何をすべきなのか」「何を目標とするのか」を問ひかけ、生徒との信頼関係のもと、毎時間の授業を充実させた教科指導、より良い人間関係づくりを目指す生徒指導を展開し「日本一の水産高校」を目指す。</p> <p>○いじめ防止基本方針のもと、いじめの撲滅や差別を見過ごさない組織作り、校内並びに英智館「海友丸」の危機管理等、「生徒一人ひとりが「安心」「安全」で、「居場所」ある学校づくりを推進し進める。</p> <p>○本校の強みと弱みを見つけ、強みをより強く、弱みを改善し、教科と教化、教員と生徒、生徒と保護者、学校と地域など組織として目的を強く共有する「チーム水高」を構成し、目の前の生徒に寄り添い、「マンネリは衰退」との思いで、ワンランク上の教育活動実現に向けてスピード感を持って取り組む。</p> <p>○新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、ICTを活用した教育を推進し、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を考え、教職員が理解を深め「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善を行う。</p> <p>○水産・海洋関係・地域連携の諸行事に多くの参加させ、わくわく活き活きするような活躍の場を与え、学校を牽引するリーダーを育成するとともに、その活動の様子や成果を本校ホームページ上で定期的に更新するなど、積極的に広報する。</p> <p>○「体力向上プログラム」により、基礎体力を向上させ、学校と家庭、地域社会が連携・協力し、生徒の心身の鍛錬に努める。</p> <p>○健康・安全に関する意識を高めさせるとともに、心身の調和的発達を図る。</p>				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務部 教務課	基礎・基本的な知識や技術の確実な習得	チャイムtoチャイムを徹底し、規律ある授業を行う。 生徒の実態に即した授業展開、定期考査問題を作成し、学力向上を目指す。 指導と評価の一体的な改善を行い、生徒の学ぶ意欲を育む。				
	主体的、対話的で深い学びの実現	アクティブラーニングなどを活用した生徒がわかる授業を展開できるように授業改善を行う。 ICTの積極的な活用と指導方法・指導体制の工夫改善を通じた新たな学びを推進する。 研修図書課と連携し授業改善のための研修を実施する。				
生徒指導部 生徒指導課	基本的な生活習慣の確立	服装・頭髮検査を月1回定期的に実施し、身だしなみ意識の向上を図る。 登下校、授業の開始終了時に、全職員が率先垂範して挨拶を指導する。 集会や各行事、部活動においては、設定された時間を厳守する習慣をつけさせる。				
	いじめを許さない学校づくり	月1回のアンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応を組織的に行う。 いじめの未然防止に向けて全職員共通理解の下、生徒の「居場所づくり」を目指す。 生徒への指導にはできるだけ複数で当たり、その後の教師間による情報の共有を密に行う。				
進路指導部 進路指導課	進路実現満足度100%の達成	企業訪問を積極的に実施し、ハローワークも情報共有する。 進学希望者への確実な情報提供と、個別指導の実施。 生徒・家庭によりそう進路指導の実施。				
	キャリア教育の充実	10年後の自分の姿を考えさせる講話やガイダンスの実施。 本校オリジナルのキャリア教育の構築。 費用対効果を考慮した資格取得情報の精選・提示。 学校生活に合わせた生活習慣を確立させる。				
第1学年	職業人としての基礎的な力をつけさせる	2学年時に備え、実習に臨む際の心構えを持たせる。 2年後の就職、進学試験に向けて、基礎学力の向上に努める。 コース選択の前に、卒業後の進路を明確にする。				
	早めの進路先決定と動機付け	進路に悩んでいる生徒に情報を提供し、進路先決定に繋げる。 今やるべきことを明確にし、動機付けを行う。				
第2学年	中堅学年の意識を持たせる。	欠席、遅刻、早退の防止に努める。年間10日以内とする。 挨拶の励行、身だしなみ、言葉遣いの指導を徹底する。 基本的な生活習慣の確立と問題行動の防止に努める				
	進路希望先を明確にさせ、目標を設定させる	科、コースの特性に応じた資格取得の促進。 進路先と希望生徒との相性などを考慮した進路指導を行う。 2年後の進路実現を目指し、忍耐力を持たせる指導を行って7月の三者面談までに希望進路を決定させる。				
第3学年	志望と適性に合った進路の実現	1学期中に面接に向けた基本的な所作を身につけさせる。 1学期中に履歴書の下書きを完成させる。				
	最上級生としての自覚の養成	学校行事や資格取得、部活動に積極的に取り組む姿勢を持たせる。 学校行事等の活躍の場を大切に、さらに成長できるような支援を行う。 日々の授業や朝学習を大切に、学び続ける習慣を身につけさせる。				

教務部 企画広報課	校内にも校外にも水産高校への関心を高める 広報活動を行う	本校の魅力が伝わるよう学校案内等のデザインを工夫する。 メディアで本校が取り上げられた際、生徒にも情報提供を行う。 中学校訪問の在り方を工夫し、本校の魅力を伝わりやすくする。						
	PTA活動や一斉メールなどの情報提供により、 生徒の安全安心な学校生活を支え、学校への 信頼度を保つ	一斉メール等を活用し、保護者との連携を密に図る。 PTA役員会、総会の運営を的確に行う。 学校のホームページを見やすいものにし、頻繁な更新を行う。						
生徒指導課 保健環境課	保健に関する情報の発信と環境衛生保全のため の確認、報告を行う	生徒保健委員会を指導し、保健便りの発行を行う 環境衛生検査(水質・照度検査等)を実施し、各場所の環境保全に努める。 保健委員で年2回安全点検を実施し、教育環境を整える。 感染症等の予防の観点から、うがい・手洗い・換気を推進する。						
	保健指導、心身の健康保持増進、健康把握と 基本的生活習慣の確立	生徒の心身の健康を把握し、生徒指導・教務・SCと協力し生徒の学校生活を支える。 魂の清掃日を設定し、美化委員会活動を通じ美化意識の向上を図る。						
進路指導部 研修図書課	校内研修を充実させ、教職員の資質を高める。	外部講師を招き、校内職員研修を充実させる。 基本研修や公開授業・相互授業参観を行い、教員の資質向上を目指す。 研究紀要を発行し、教員の自主的な研修活動を周知する。						
	図書館の設備を充実し、生徒に読書の楽しさや 有用性を伝える。	ソフトウェアを動かし、図書貸出の利便性を図る。 図書委員活動を活性化させ、生徒の自主的な活動を目指す。 生徒の願いの場として図書館の環境を整備する。						
海洋科 航海コース	将来の船員としての必要な力を身につけさせる	海技士国家試験(筆記)合格者を複数出す。 乗船前後の指導を工夫し、乗船実習と学校での授業とを結びつける。 外部団体との進路学習を複数回持つ。						
	船舶職員養成施設の充実を図る	海技士養成施設における実務を整理し共通理解を図る。 QSSの運営の充実を図る。 3県共同運航実習船の運航の充実を図る。						
海洋科 機関コース	安全教育の徹底、社会貢献できる人材育成	実習時の服装、保護具の着用、整理整頓の徹底。 インターンシップ受入先企業開拓、就職先開拓。 進路実現のための資格取得、勉強への取り組みを実行するよう生徒に促す。						
	船舶職員養成施設の充実を図る	海技士養成施設における実務を整理し共通理解を図る。 QSSの運営の充実を図る。 3県共同運航実習船の運航の充実を図る。						
海洋科 マリン技術 コース	事故を起こさないダイバーを育てる	基礎の泳ぎ込みを徹底し水に対する恐怖心を減らす。 潜水事故に対する知識を実例を挙げて説明し、理解させる。 様々な状況・器材を実習で体験させ、就職先でのパニックを減らす。						
	進路開拓(潜水会社)を進める。	卒業生が就職している潜水会社との連携を強化する。 会社訪問を行い、潜水会社への進路先を確保する。 有効な潜水資格を取得させ、全員が潜水職を選択できるようにする。						
食品流通科	職業人としての資質を育成し、社会での実践能 力を身に付けさせる。	総合実習を通して、衛生知識を身に着ける 総合実習を通して、他者とのコミュニケーション能力を向上させる。 挨拶・服装・言葉遣い・時間厳守の指導を徹底する。						
	新商品開発と地域との連携	地元企業との連携 地元の食材を使用した新商品開発 販売実習への参加						
アクアライフ科	社会人・水産人としての資質を身に付けさせる。	挨拶・服装・言葉遣い・時間厳守の指導を徹底する。 命の大切さと安全に対する意識を身に付けさせる。 生物飼育・漁具製作などの体験活動を多く取り入れる。						
	地域との連携	地域と連携した活動を多く取り入れる(漁業体験・竹林整備等) 地域資源を活用する(水産・農業・土地・風土 等) 貢献活動への参加(イベント等)						
事務室	予算の効率的な執行を図る。	効果的・効率的な予算執行に努める。 光熱水費の削減に努める。 偏りのない予算執行に努める。						
	生徒及び教職員の安全管理・環境整備に努め る。	不良・危険個所に対し速やかに対応する。 校舎を巡回し危険防止策を講じ、事故等を未然に防ぐ。 職員間での危険個所等の情報共有を密に行う。						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・

評価項目以外のものに関する意見

--